

「伝え合い学び合う子ども」の育成

～効果的に新聞を活用する授業の実践～

新潟市立和納小学校

1 NIE 実践のねらい

本校の研究主題にある「伝え合い学び合う子ども」の姿は、次のとおりである。

- (1) 課題に対する自分の考えをもったり、自分の立場を明確にしたりする。(もつ)
- (2) 自分の考えを、分かりやすく相手に伝える。(伝える)
- (3) 相手の考えを聞き、自分の考えとの相異点や類似点を判断する。(聞く・伝え合う)
- (4) 根拠を明確にして賛成や反対の意見を述べ、考えを共有し、考えを再構築する。
(学び合う)
- (5) 学習のまとめをする。(学んだことを明確にする)
- (6) 振り返りをする。(学びを自覚する・考えを深める)

NIE 実践は、上記の姿を目指す取組の一環である。新聞は効果的な教材の一つととらえて活用する。どのような教材でも、効果的な活用方法がある。そこで、授業で新聞をより効果的に活用するにはどのような手立てが必要なのかを、実践を通して追求することにした。

しかし、授業だけで新聞を使用しても十分な効果は期待できない。学校生活の様々な機会に新聞を読む場面を設定したり、子どもが自分で新聞を読むことができる環境を整えたりすることで、子どもたちの新聞に対する親近感が高まり、授業で扱ったときの効果が高まると考えた。

そこで、本校では、日常場面での新聞活用も重視しながら、授業場面で効果的に新聞を活用し、校内の研究主題である「伝え合い学び合う子ども」を育成する実践を行うことにした。

2 本年度実践の概要

(1) 1 年次の取組から明らかになったこと

①授業場面での新聞活用

実践する教師によって、新聞を扱う教科や提示の方法、授業場面は異なる。しかし、教師がどのようなねらいをもって新聞を活用するかによって、その方法にはいくつかの共通点があることが分かった。それらを「新聞の活用方法の枠組」としてとらえることにした。枠組は以下のとおりである。

ア 新聞記事の中に問題がある。

新聞記事を紹介することで、子どもが疑問をもったり分からない部分が生じたりする。新聞記事をもとに学習課題がつくられる。

イ 新聞記事の中に考えるための手立てがある。

学習課題があって、それを解決するための糸口やきっかけ、考えるための素材を新聞記事の中から見出す。新聞記事を用いながら問題解決を図る。

ウ 新聞記事の中に答え（学習の確認，発展問題）がある。

学習を進めて得た解やまとめが，世の中とどのように結び付いているかを確認したり考えたりするために，新聞記事を利用する。

新聞を活用した授業を実践する際に，教師が用意した新聞記事がこの枠組に照らし合わせて検証することで，どのようなねらいをもって新聞を選定し，また，その新聞記事からどのような子どもの思考を導こうとしているのかを明確にし，授業構想に生かすことができる。そこで，2 年次は，学習指導案上に，授業者が意図する「新聞の活用方法の枠組」を明記することにした。

②日常場面での新聞活用

子どもが日常的に新聞に親しむ場面として，毎週 1 回，NIE タイムを実施した。実践内容は，子どもの実態に応じて各学級担任が設定することにした。新聞記事からクイズを考えたり，教師が作ったクイズの答えを本文や写真を基に考えたり，新聞記事のスクラップを作らせて気付いたことや疑問に思ったことを記述させたりする活動を行った。同じ形式の活動を継続することで，新聞に親しみ，新聞を読む力がより身に付き，学習効果が高まる傾向があることが分かった。

また，取組の軌跡や成果を教室や廊下の壁面に掲示することで，活動を振り返ることができるようになり，より効果的な取組になることが分かった。

(2) 2 年次の取組

①授業場面での新聞活用

1 年次に引き続き，「伝え合い学び合う子ども」を具現するために，全ての教諭が 1 回以上の研究授業を行った。その際，1 年次の実践で明らかになった「新聞の活用方法の枠組」を明示して学習指導案を作成することにした。

また，11 月に行う NIE 研究発表会に先駆けて，9 月に全体研修会を行った。研究発表会でご指導をいただく新潟県 NIE アドバイザーを招聘し，本校の NIE 推進の取組の説明とともに授業研究を行い，登校の研究の方向性に関するご指導をいただいた。

11 月 22 日に，NIE 研究発表会を実施した。4 学年と 6 学年で公開授業を行い，参観者で授業の協議を行った後，新潟県 NIE アドバイザーにご指導をいただいた。

今年度の公開授業は以下のとおりである。

学 年	教科／領域 ・ 単元名
1 学年	生活科 「いきもの だいすき」 【全体研修会】 指導者 新潟県 NIE アドバイザー 新潟市立巻北小学校 古井丸 裕三 様 新潟市立両川小学校 中村 康 様
2 学年	国語科 「あなのやくわり」
3 学年	国語科 「調べて書こう，わたしのレポート」
3 学年	国語科 「新聞記者は何を伝えたいのかな」

4 学年	国語科 「和と洋のよいところ BOOK を作ろう」 【研究発表会】 指導者 新潟県 NIE アドバイザー 新潟市立両川小学校 中村 康 様
4 学年	算数科 「がい数」
5 学年	国語科 「テレビとの付き合い方」
6 学年	道徳 「自分らしく生きる」 【研究発表会】 指導者 新潟県 NIE アドバイザー 新潟市立巻北小学校 古井丸 裕三 様
おおぞら松組	自立活動 「新聞を読もう！（いろいろクイズ）」
おおぞら竹組	学級活動 「クリスマス会でクイズ大会をしよう」

②日常場面での新聞活用

NIE タイム

1 年次に引き続き、週 1 回、NIE タイムを行った。実践内容は、子どもの実態に応じて、各学級担任が設定した。取組の内容は、新聞クイズの答えを話し合ってから考える活動、新聞記事を読んで自分が考えたことを伝え合ったり記述したりする活動、新聞記事をスクラップして自分が考えたことを記述する活動等があった。どの学級でも、同じ形式の活動に継続して取り組んだ。また、各教室壁面に NIE タイムで学んだ成果物を掲示することで、子どもたちが取組を振り返り、新聞を身近に感じることができるようにした。



③新聞に親しむ環境整備

NIE 掲示コーナー

全校児童が通る階段の踊り場の壁面に、各委員会等が新聞記事を用いて作成したポスターの掲示コーナーを設置した。ポスターには、委員会が紹介したい内容の新聞記事や、全校に呼びかけたいことに関する内容の新聞記事の切り抜きと紹介文等がまとめられていた。また、この掲示コーナーを利用して、学年の N I E タイムの成果物を掲示することもあった。



新聞読もうよコーナー

子どもたちが自由に新聞を手に取り、読むことができる場所を設置した。児童玄関ホールと図書室前に新聞台を設置し、新聞を開いたまま置いておけるようにした。児童玄関は、毎日全校の子どもたちが通る場所であるため、登校後や下校前、休み時間等に子どもが新聞を読む姿が見られた。専用の新聞台をしつらえたことで、子どもの目線の高さで見やすく、また子どもでも新聞を開くことが容易にできるため、気軽に読むことができるようになった。



④長期休業での活用

夏休みのコンクール出品の子ども向けのたよりに、新聞に関するコンクールも加えて出品を奨励した。6 学年は、「新聞記事感想文コンクール」に出品し、団体賞と個人賞を受賞した。

3 実践例

(1) 4 年生 国語科「和と洋のよいところ BOOK を作ろう（くらしの中の和と洋）」

授業者 教諭 相澤 タ架莉

①本時のねらい

和食のよさについて、自分の選んだ新聞記事から読み取ったり、友達と比較したりする活動を通して、自分にとって必要な和食のよさの情報を集めることができる。

②新聞の活用方法の枠組

【ウ 新聞記事の中に答え（学習の確認，発展問題）がある。】

③本時の構想

子どもたちは、教科書での学習を通して和室と洋室それぞれのよさを学習し、短い言葉でまとめる活動を行ってきた。その後、和食と洋食のよさを同様にまとめる学習を行うにあたり、新聞を使用することにした。前時では、洋食のよさを新聞記事から読み取る活動を行い、本時では、和食のよさを新聞記事から読み取る授業を公開した。

食に関する特集記事や、食の栄養価や食文化の大切さについて書かれた複数の新聞記事を提示し、その中から和食と洋食のよさを読み取らせ、必要な部分を要約しながら引用させる学習活動を計画した。子どもたちが、自分の興味に応じて新聞記事を読むことができるように、4 種類の新聞記事を用意した。子どもたちは新聞記事の見出しや写真、記事の内容から、自分が作る「和と洋のよいところ BOOK」に書きたい情報が記載されている新聞記事を選択するようにした。

授業時間内に新聞記事を読み比べることは難しいため、4 種類の新聞記事は事前に配付して読ませておくことにした。また、本単元の学習のねらいから外れそうな文は消したり、難解な語句の意味を調べて書くことができるスペースを設けたりして、新聞記事が教材になるように加工した。

④授業の実際

新聞記事を選択する

前時までの学習を振り返り、学習課題を「自分にとって必要な和食のよさは何かな。」と設定した後、本時で扱う 4 種類の新聞記事の概要を教師が紹介した。その後、子どもたち一人一人に新聞記事を 1 つ選択させた。事前に配付して読ませておいたため、迷わずすぐに決めることができた。子どもたちが選択した新聞記事を教師が把握するために、黒板にネームプレートを貼らせた。



新聞記事から和食のよさを読み取る

選択した新聞記事から、和食のよさを読み取る活動を行った。必要だと考えた文はマーカーで線を引かせた。線を引いた文を「BOOK メモ」に書くときは、短い文に要約して書かせた。事前に読ませておいたため、自分にとって必要な情報がどこに書いてあるか予測がついていたようであった。



選択した文を友達と比較する

同じ新聞記事を選択した子どもたちで集まり、線を引いた文とその理由を互いに伝え合う場面を設定した。友達の考えを聞いて線を付け足したい場合は、別の色のマーカーで線を引かせた。同じ文に線を引いていた場合は、理由を伝え合うことによって自分の考えがより確かなものになり、自信をもってメモに書くことができた。



各新聞記事に書かれたよさをまとめる

4種類の新聞記事それぞれに書かれていた和食のよさを発表させた。子どもの発言は教師が板書した。1つの新聞記事について3人程度ずつ発表させると、発表内容に共通する言葉があることが明らかになった。それらの言葉を用いて、学習のまとめを「和食のよさは、四季に合わせた旬の料理がある・見た目は日本特別・栄養バランスがよい・年中行事と結び付いている、ということである。」とした。



⑤授業の成果と課題

○ 加工した新聞記事を事前に読ませる手立て

45分間の中に組まれた活動は、「選ぶ」→「読み取る」→「必要な文に線を引く」→「友達と伝え合う」→「要約しながら引用する」→「学級全体で共有する」と、盛りだくさんであった。これらの活動を時間内に進めることができたのは、新聞記事を事前に配付し、読ませておいたことが影響している。

しかし、新聞記事は大人向けに書かれているため、事前に配付しただけでは内容を理解できない。そこで、4学年の子どもたちでも読み取ることができるよう、新聞記事を教材へと加工する手立てが必要になる。このように、意図的に加工したことで、本時では教師が語句の意味を教えることなく、新聞を読み取らせることができた。

○ 新聞記事の構造を利用して読み取らせる

自分にとって必要だと感じる文をメモに書かせる際、要約しながら引用させる活動を設定した。新聞記事は、「見出し」→「リード文」→「本文」の順に、徐々に詳しく書かれていくという構造がある。この構造を子どもたちにも教え、それを利用させながら読み取らせることで、子どもたちが要約する活動を支援したり、要約の手法を学ばせたりすることができた。このように、新聞の構造を利用して要約の指導を行うことは、新聞の効果的な活用方法であると言える。

(2) 6年生 道徳 「自分らしく生きる」

授業者 教諭 藤田 杏奈

①本時のねらい

「女子力」が大切かどうかを話し合う活動を通して、「男らしさ・女らしさ」よりも「自分らしさ」を大切にして生きることのよさに気づき、誰に対しても公平に接しようとする心情や態度を養う。

②新聞の活用方法の枠組

【ア 新聞記事の中に問題がある】(1枚目の記事)

【ウ 新聞記事の中に答え(学習の確認、発展問題)がある。】(2枚目の記事)

③本時の構想

4か月後に卒業を迎え、新たな仲間と集団生活を送るとき、誰にでも公平に接することができる子どもに育てるためには、多様な人間性を認めることができるようにしなければならない。そこで、本時では、男女の性差に関する問題を扱った新聞記事を使用して、どのように生きることが正しいかを考えさせた。

6学年の子どもの多くは、自分らしく生きることは大切だと考えていた。しかし、実社会では「男らしさ・女らしさ」という考えを強要される状況が根強く残っており、本時では、「男らしさ・女らしさ」を強要されて不快な思いを体験したという投稿記事を取り扱った。実社会の声を扱うことで、学習を自分事としてとらえさせた。

本時では、2枚の新聞記事を提示した。1枚目の新聞記事は、「女子力」という言葉に対して違和感を抱いた体験が書かれている投稿記事である。この新聞記事を読むことで、子どもたちは、普段何気なく口にしたり耳にしたりする言葉が人を困らせることがあると気づき、「女子力」という考え方に疑問をもつようになって考えた。この疑問が、本時の活動の必然性を高めるとともに、子どもが自分の生き方を見つめ直す契機になると考えた。

2枚目の新聞記事は、「女子力」という考え方ではなく、「自分らしさ」を大切にすべきであるということが書かれている。「女子力」という考え方に疑問をもった子どもたちは、正しい生き方を考えるときに、『男らしさ・女らしさ』にこだわらない考え方が大切だ」という考えに至ると予想した。そのとき、2枚目の新聞記事は、子どもたちの考えを勇気付け、子どもたちに自信をもたせることができると考えた。

④授業の実際

アンケート結果から自分たちの価値観に気付かせる

「料理は男がした方がよい」「女子は電車のおもちゃで遊ばない方がよい」等、子どもたちが「男らしさ・女らしさ」という考え方をどうとらえているかを明らかにするアンケートを事前に実施した。集計の結果、大半の子どもは「どちらともいえない」を選択していた。この結果から、自分たちが、家事や趣味は性別とは無関係であるという考え方をもっていることを全体で確認した。



新聞記事から学習課題を設定する

1 枚目の新聞記事を配付し、教師が読み聞かせた。新聞記事の中に繰り返し出てくる、本時のキーワードとなる「女子力」という言葉について、使ったことがあるか、聞いたことがあるか等を子どもたちに問いながら、その言葉のもつ意味を学級全体で確認した。その後、学習課題を『『女子力』は大切な。』と設定した。



自分の立場を決め、友達と伝え合う

ワークシートを配付し、「女子力」という考え方が大切かどうか、どちらかを選択させ、その理由を記述させた。全員が記述した後、友達とワークシートを交換して、互いの考えを読み合わせた。交換する際は、教室内を自由に歩き回ってよいこととして、より多くの友達の考えにふれさせるようにした。その後、説得力がある考えだと感じた友達を互いに紹介し、数名に発表させた。



大切にすべき生き方を考える

子どもたちの多くが「女子力という考え方は大切ではない」と考えていた。そこで教師が「では、どんな生き方を大切にしなければいけないのですか。」と問い、ペアやグループで考えさせた。数名に発表させると、「自分がしたいことをすることが大切」「自分がやりたいことが大切」と、「自分」という共通の言葉が述べられた。



新聞記事からまとめを設定する

2 枚目の新聞記事を配付し、教師が読み聞かせた。新聞記事の中にある「自分らしさを大切に」という考え方は、「自分のやりたいことが大切」という自分たちの考えとほとんど同じであることを確認し、学習のまとめを『『女子力』よりも自分らしさが大切。』とした。その後、振り返りで、本時の学習に対する自分の考えを記述させた。

今日勉強して、女子力で決めつけられるわけではないことが分かりました。それに、自分らしく生きることが大切なんだということが分かりました。
だから、女子力が高いと言われても、女の子みたいにするわけではなく、自分らしく生きればいいと思いました。

(A 子の振り返りの記述より抜粋)

⑤授業の成果と課題

○ 自分たちの考えに自信をもたせる新聞記事

友達との話し合いを通して、子どもたちは「自分のやりたいことを大切にすべき」という考えに至った。

これは教師の予想どおりである。2 枚目の新聞記事は、子どもたち自身が話し合っ考えた生き方に賛同する人がいることが分かる投稿記事である。同意する人が実社会に存在することが分かることは、子どもたちにとって心強いことである。振り返りに、「自分らしさを大切にしたい」という記述が多く見られたのは、自分たちが考えた生き方に自信をもつことができたことの表れだと考える。

○ 議論になる展開を通して正しい生き方に気付かせる

ワークシートに自分の立場を書かせた場面で、『女子力』は大切だ」という選択をした子どもも数名見られた。授業の構想段階では、その考えを選択する子どもはごくわずかだと考えていたが、実際は予想以上に多かった。投稿記事は、社会でも議論されている題材が多い。投稿記事を授業で扱うことは、議論になる展開が十分に予想される。一つの考え方を教えるだけでなく、議論を通して実社会には多角的なとらえ方があることを指導することも、効果的な新聞の活用方法であると考えている。

4 成果と課題

○ 新聞の活用方法の枠組に当てはめた授業の構想

1 年次の研究で明らかになった新聞の活用方法の枠組に当てはめて、2 年次は授業を構想してきた。その結果、どのように新聞を活用しようとしているのかという教師のねらいが、学習指導案から読み取ることができるようになった。授業者が子どもの思考の流れを想定し、意図的に授業展開の中に新聞を位置付けることができ、「とにかく新聞を使用しなければ」と感じていた 1 年次に比べ、大きな成果が得られた。

○ 新聞記事の加工による教材化

新聞記事は、そのままの状態では、なかなか授業で扱いにくい。45 分間の授業の中で、教師の意図する部分にすべての子どもの目を向けさせ、効果的に新聞を読み取らせるためには、児童の発達段階に応じた工夫が必要である。そこで、新聞記事を意図的に加工する手立てを行った。授業のねらいとはあまり関係のない部分は省略したり、読ませたい部分を抽出したりすることで、新聞の教材としての価値を高めることができた。

○ 新聞を使用した授業づくりによる教師の授業力の向上

授業に使用できそうだと感じる新聞記事を見付けても、そのまま使用することは難しい。新聞記事をどの場面で使用するのか、どの部分を見せるのか、どのようにして提示するのか等、枠組を生かして、新聞を位置付けた授業を構想することが必要である。同じ新聞記事を使用した授業の先行実践例を見付け出すことは難しく、それゆえ、教材研究を通して、試行錯誤することが一層求められる。このように、新聞記事を有効な教材として活用する授業を構想することで、教師の授業力を向上させることができた。

○ 枠組にとらわれない新聞の活用方法の可能性の探究

すべての NIE 実践が、本校の見出した新聞の活用方法の枠組に当てはまる訳ではない。本校で行った授業の中にも、枠組を超えた効果があったと感じることも多々ある。枠組を示すことは、授業づくりの見通しをもつためには有効ではあるが、それだけにとらわれることなく、様々な可能性を探りながら、新聞記事の効果的な活用方法を探し続けることが大切であろう。